

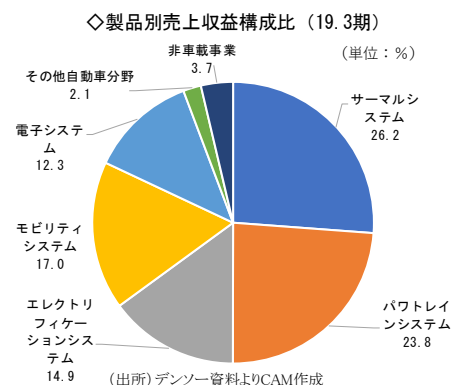
企業ニュース デンソー

(東証1部 : 6902) [https:// www.denso.com/jp/](https://www.denso.com/jp/)

作成者: 奥村義弘

電動化時代をリードする自動車部品メーカー

1949年、トヨタ自動車から分離独立し日本電装として設立。1953年、独ロバートボッシュ社と電装品に関する技術提携契約を締結。1955年、噴射ポンプ準備室を開設。以降事業領域を広げ、パワトレイン、熱機器、電子、情報通信機器など幅広い製品分野で事業展開している。1996年、現商号に変更。CASE（C：接続性、A：自動運転、S：共有、E：電動化）が車を一変させる時代と言われる中で成長期待が高まっている。19.3期の地域セグメント別売上収益構成比は日本43%、北米22%、欧州11%、アジア23%、その他1%。成長目標は、26.3期に売上収益7兆円、営業利益率10%。



23%、その他1%。成長目標は、26.3期に売上収益7兆円、営業利益率10%。

一過性の損失が響いたが、将来に向けた着実な布石を評価したい

19.3期の連結業績は売上収益が5兆3,628億円、前期比5%増、営業利益が3,162億円、同23%減。第3四半期決算公表時点の営業利益予想3,800億円と比較し638億円下振れて着地した。減益の要因は、前期に発生した一過性の収益がなくなった影響や将来の成長領域への投資の加速による。第4四半期は、日本での品質費用の引当てや一部顧客の操業停止、北米での医療費負担の増加や採算改善の未達、韓国拠点の減損などの計上が響いた。

20.3期の会社計画は売上収益が5兆5,000億円、前期比3%増、営業利益が3,800億円、同20%増。安全製品の拡販や車両の電動化の進展で増収増益を計画する。技術開発への取り組みを強化しており、設備投資は4,500億円、R&D費用は5,200億円と高水準を見込む。4月1日に、電動化、自動運転の普及を目指す新会社を設立。同月5日にトヨタ自動車から電子部品事業を集約する譲渡契約を締結することで合意するなど、外部リソースの取り込みや各種の提携推進にも積極姿勢を示している。

[株価動向・投資判断]

19.3期の営業利益の大幅な下振れ着地はネガティブであったが、電動化や自動運転に向けたリーディングカンパニーとしての存在感に変化はない。押し目には投資魅力があろう。

<6902 デンソー 業績:IFRS>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上収益 百万円 (伸び率)	営業利益 百万円 (伸び率)	税引前利益 百万円 (伸び率)	当期利益 百万円 (伸び率)	1株利益 円	1株配当 円
18.3	5,108,291 (13)	412,676 (25)	449,903 (25)	320,561 (24)	410.5	130.00
19.3	5,362,772 (5)	316,196 (▲ 23)	356,031 (▲ 21)	254,524 (▲ 21)	326.5	140.00
20.3 予	5,500,000 (3)	380,000 (20)	429,000 (21)	305,000 (20)	393.6	140.00



[主要株価指標] (売買単位: 100株)

株価 (2019/4/26)	4,853 円
年初来高値 (高値日)	5,225 円 (19/4/19)
同 安値 (安値日)	4,303 円 (19/3/29)
予想 P E R (20.3 予)	12.3 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	4,640.4 円
P B R	1.05 倍
予想配当利回り (1株当たり配当金年140.00円)	2.88 %
R O E (19.3)	7.1 %
発行済み株式数	78,794 万株